

●第 41 回地盤震動シンポジウム(2013)●

2011 年東北地方太平洋沖地震から分かった新たな知見と予測地震動への反映

— 巨大地震に備えるための地盤震動研究 (その 3) —

<主催> 日本建築学会構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

過去 2 年のシンポジウムでは、東北地方太平洋沖地震の震源像の把握と各地域で得られた強震動記録へ及ぼす震源過程および地下構造の影響について、さらに地震動と建物応答・被害との関係について報告・議論を行ってきた。同テーマとして、3 回目となる本シンポジウムでは、その後各機関において進められてきた東北地方太平洋沖地震や昭和南海地震などの海溝型地震による強震記録の再現結果から新たに見えてきた巨大地震の震源像と地下構造による伝播経路・増幅特性に加えて、東北地方太平洋沖地震において関東地域臨海部で大きな被害をもたらした液状化の被害状況についても報告頂く。これらの一部は、見直しが行われている南海トラフ沿いの巨大地震による予測地震動へも反映されはじめています。一方、内陸地震に対しても最新の調査研究を踏まえた強震動評価の見直しが行われている。さらに、これら巨大地震に対する大振幅時の建物応答の評価事例についても報告頂く。これらの研究・調査の結果を、来るべき巨大地震に対する建築物等の被害軽減に向けて、どのように活用すべきかについても幅広く議論する場としたい。

日 時：2013 年 11 月 26 日 (火) 10:00～17:30

場 所：建築会館ホール

内 容 (各講演の題目等は変更されることがあります)

司会：松島信一 (京都大学)・高井伸雄 (北海道大学)

：久田嘉章 (小委員会主査/工学院大学)

1. 主旨説明 10:00～10:15

2. 過去の海溝型巨大地震による強震動・被害と予測地震動への反映 10:15～12:15

2-1 2011 年東北地方太平洋沖地震 (M9.0) の強震動の検証と

広域長周期地震動シミュレーション

：川辺秀憲 (京都大学)

2-2 強震動パルスの生成に着目した海溝型巨大地震の震源モデル

：野津 厚 (港湾空港技術研究所)

2-3 3 次元地下構造を考慮した 1946 年南海地震の震源モデルと

それをを用いた強震動評価

：香川敬生 (鳥取大学)

2-4 埋立地の液状化被害分布に与えた表層地盤構造の影響

：関口 徹 (千葉大学)

司会：大野 晋 (東北大学)・神野達夫 (九州大学)

3. 特別講演 13:15～14:45

3-1 海溝型巨大地震による液状化の発生と予測

：吉田 望 (東北学院大学)

3-2 東北地方太平洋沖地震における石油タンクのスロッシングと

やや長周期地震動に関する幾つかのこと

：座間信作 (横浜国立大学)

4. 来るべき巨大地震に備えて 15:00～16:30

4-1 新たな南海トラフ沿いの巨大地震の震源像と長周期地震動

：森川信之 (防災科学技術研究所)

4-2 上町断層帯と大阪平野南部の地下構造に関する新たな知見と

それに基づく地震動予測

：関口春子 (京都大学)

4-3 巨大地震による入力地震動と建物応答レベル

：斉藤大樹 (豊橋技術科学大学)

5. 総合討論「来るべき巨大地震の予測地震動と利活用について」16:30～17:20

司会：上林宏敏 (京都大学)・吉村智昭 (大阪大学)

6. まとめ 17:20～17:30

：永野正行 (東京理科大学)

記録：佐藤浩章 (電力中央研究所)

定 員：200 名 (当日会場先着順)

参加費：会員 5,000 円、会員外 8,000 円、学生 3,000 円 *資料代 3,000 円含む

問合せ：事務局研究事業グループ 伏見 Tel.03-3456-2057